

白山市学童野球連盟審判部

ルール適用事例集

2014年度

審判部長
西 正康

はじめに

連盟審判員のみなさん、今年度の白山市学童野球連盟公式戦も10/12～の新人大会をもって全日程が終了いたします。

おかげさまで春季大会前の審判講習会から今日までの間、大きなトラブルもなく無事に終えることができています。

各員のご協力に心より感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございます。

さて、今シーズンこれまで私自ら審判員として試合で経験したり、観戦時や聞いた事例を、審判される際の参考になればとの思いでいくつか紹介してみます。

学童公式戦はまもなく終了ですが、各員におかれましては所属チームの練習試合や協会からの要請等で審判されることもまだあることと思いますので目を通していただければ幸いです。

白山市学童野球連盟 審判部部長 西 正康

1. 打順の間違い

4/13 市春季大会 松任ブルーウイングス×美川学童野球クラブ戦

美川攻撃時に発生

(発生時、ニシは現場にはいなかったのですが、この状況下でくださるジャッジについて説明します)

不正位打者がアウトになる場合

不正位打者が打撃を完了し、次打者に対し1球投球されるか、または次打者への投球前でもプレーが発生(塁への送球=牽制球など)前に守備側からアピールがあった場合。

その際、不正位打者の打球によるものか、または不正位打者が安打、失策、四死球、その他で一塁に進んだことに起因した、すべての進塁および得点をすべて無効とする。

不正位打者が正当化される場合

不正位打者が打撃を完了し、次打者に対し1球投球された。

または次打者への投球前でもプレーが発生(塁への送球=牽制球など)した場合。

※不正位打者の打撃中に守備側からアピールがあった場合、または攻撃側が誤りに気付いた場合には、正位の打者がカウントを引き継いで試合を続行する。

その際、走者が不正位打者の打撃中に盗塁、ボーク、暴投、捕逸などで進塁することは正規のプレーとされ、元の塁に戻されることはない。

この件について、野球規則の規定項目は数ページに渡って記述されており、全文を掲載すると長くなるので、各員は公認野球規則下記該当項目を確認し把握ねがいます。

該当する公認野球規則

6.07 打撃順に誤りがあった場合 (a)～(d)

(2014 公認野球規則 77ページ～81ページ)

2. 打者の守備妨害

6/8 県スポ少ブロック大会 Eブロック準決勝（主催：松任ブルーウイングス）

松任ブルーウイングス×向栗ヶ崎イーグルス

（主審：西）

プレーの詳細

松任 BW 攻撃時 1 死 1・3 塁

1 塁走者盗塁時、打者空振り後よろけて 2 塁送球しようとした捕手にぶつかる。

その結果 1 塁走者は 2 塁セーフ。3 塁走者も捕手の 2 塁送球の間に本塁へ進み得点。

くだしたジャッジ

2 塁セーフ、3 塁走者本塁に触塁の時点でタイムを宣告。

打者を守備妨害でアウトとし、走者をそれぞれ元の塁に戻して二死 1・3 塁で試合再開

該当する公認野球規則

6.06 次の場合、打者は反則行為でアウトになる。=75 ページ～ (a)・(b)省略

6.06(c) 打者がバッターボックスの外に出るか、あるいはなんらかの動作によって、本塁での捕手のプレイおよび捕手の守備または送球を妨害した場合。

しかし例外として、進塁しようとしていた走者がアウトになった場合、および得点しようとしていた走者が打者の妨害によってアウトの宣告を受けた場合は、打者はアウトにならない。

【原注】打者が捕手を妨害したとき、球審は妨害を宣告しなければならない。打者はアウトになりボールデッドとなる。妨害があったとき、走者は進塁できず、妨害発生の瞬間に占有していたと審判員が判断した塁に帰らなければならない。しかし、妨害されながらも捕手がプレイをして、アウトにしようとした走者がアウトになった場合には、現実には妨害がなかったものと考えられるべきで、その走者がアウトとなり、打者はアウトにならない。その際、他の走者は、走者がアウトにされたら妨害はなかったものとするという規則によって、進塁も可能である。このような場合、規則違反が宣告されなかったようにプレイは続けられる。

打者が空振りし、《スイングの余勢で、》その所持するバットが、《捕手または投球に当たり、審判員が故意ではないと》判断した場合には、打者の妨害とはしないが、ボールデッドとして走者の進塁を許さない。打者については、第 1 ストライク、第 2 ストライクにあたるときは、ただストライクを宣告し、第 3 ストライクにあたるときに打者をアウトにする。（2 ストライク後の“ファウルチップ”も含む）

以下、【注 1】・【注 2】についても文章は紹介しませんが、各員は確認、把握してください。

3. ボーク関連

7/5 白山市スポ少Aリーグ 1回戦2試合め 松陽×若体SS

(西：観戦)

プレーの詳細

若体攻撃時、守備側の松陽のバッテリーが走者の絡んだ打撃を阻止しようとして捕手がウエストボールを要求した際、投球前に捕手がキャッチャースボックスから片足を完全に外に踏み出して打者の外角遠くにミットを構えた後に投球された。

※疑問に思って調べた結果、このプレー自体は反則ではないので当然ペナルティもないが、しかし状況によってはボークとなる。

該当する公認野球規則

8.05 塁に走者がいるときは、次の場合ボークとなる。

(a) ～ (k)、(m)省略

(1)故意四球が企図されたときに、投手がキャッチャースボックスの外にいる捕手に投球した場合。(2014 公認野球規則 132ページ)

【注】

“キャッチャースボックスの外にいる捕手”とは、捕手がキャッチャースボックス内に両足を入れていないことをいう。したがって、故意四球が企図されたときに限って、ボールが投手の手を離れないうちに捕手が片足でもボックスの外に出しておれば、本項が適用される。

4. 投手の禁止事項

7/5 白山市スポ少Aリーグ 1回戦3試合め 松任BW×若体SS

(主審：西)

プレーの詳細

松任BWの攻撃走者2塁の時、守備側若体の投手が2塁走者の刺殺を目的に塁に送球したが、野手が入っておらず送球がセンターまで転がった

くだしたジャッジ

そのまま流した

ただし、このようなプレーが頻繁に行われた場合、投手の禁止事項に該当するのでボールを宣告する。

該当する公認野球規則

8.02 投手は次のことを禁じられる。(2014 公認野球規則 126ページ～)

(a)・(b) 省略

(c) 打者がバッターボックスにいるときに、捕手以外の野手に送球して、故意に試合を遅延させること。ただし、走者をアウトにしようと企てる場合は除く。

ペナルティ 審判員は1度警告を発し、しかもなお、このような遅延行為が繰り返されたときには、その投手を試合から除く。

(【注1】省略)

【注2】アマチュア野球では、本項ペナルティの後段を適用せず、このような遅延行為が繰り返されたときは、ボールを宣告する。

参考：公認野球規則 8.05 (h) (2014 公認野球規則 132ページ)

8.05 塁に走者がいるときは、次の場合バークとなる。

(h) 投手が不必要に試合を遅延させた場合。

【原注】本項は、8.02 (c) により警告が発せられたときは、適用されない。投手が遅延行為をくり返して8.02(c)により試合から除かれた場合には、あわせて本項のバークの課せられる。(以下省略)

8.02(c)の【注2】で規定されているようにアマチュア野球では遅延行為が即バークとなることはありません。あくまでも参考です。

(上記のプレイは1回だけ行われました)

投手の遅延行為はかなり厳しく罰しなければいけないことを理解してください。

5. 走者が安全に進塁できる場合

7/12 白山市スポ少Aリーグ 準決勝 蕪城×朝日

(主審：水上さん 西＝観戦)

プレーの詳細

朝日の攻撃 走者1塁、走者が2塁へ盗塁したため投球を受けた捕手が2塁へ送球。

(その際、打者の空振りはなかった)

その送球が打者の持つバットに当たって3塁ベンチ横のボールデッドライン越えた。

くだしたジャッジ

1塁走者の盗塁を有効とし、2塁を基準に1ベース進塁させて走者3塁とし試合再開。

該当する公認野球規則

①6.06(c) (2014公認野球規則 76ページ)

【注1】

打者が空振りしなかったとき、投手の投球を捕手がそらし、そのボールがバッターボックス内にいる打者の所持するバットに触れた際はボールインプレイである。

※ 空振りした後、そのスイングの余勢でバットに当たった場合はボールデッド

⇒ 6.06(c)【原注】の後段に記述あり

②7.05(h)【付記】 (2014公認野球規則 95ページ)

次の場合、各走者(打者走者を含む)は、アウトにされるおそれなく進塁することができる。

【付記】

投手の投球が捕手を通過した後(捕手が触れたかどうかを問わない)さらに捕手またはその他の野手に触れて、ベンチまたはスタンドなど、ボールデッドになると規定された箇所に入った場合、および投手が投手板上から走者をアウトにしようと試みた送球が、その塁を守る野手を通過した後(その野手が触れたかどうかを問わない)さらに野手に触れて、前記の箇所に入ってボールデッドになった場合、いずれも、投手の投球当時の各走者の位置を基準として、各走者に2個の塁を与える。

このプレーでは、捕手の送球がバットに当たった時点では上記①によりボールインプレイでした。

そして、その送球がボールデッドゾーンに入ったため、②の項が適用されて前述のジャッジとなりました。

6. 打者の反則行為

- ①8/31 練習試合：松陽×森本ドリームス (主審：西)
②9/15 市J A大会2回戦：若体×朝日 (主審：西)

プレーの詳細

- ①松陽の攻撃時、1死走者2・3塁でスクイズプレーが行われた。
右打席の打者は両足を本塁ベースに置いた状態で外角低めの投球をバントした。
3塁走者はホームイン、2塁走者は3塁へとそれぞれ進塁した。
- ②若体の攻撃。無死走者1・2塁。送りバントが行われた。
右打者は右足を本塁ベース後端上に置いて投球をバントした。
走者はそれぞれ2塁・3塁へ進塁した。

くだしたジャッジ

(①・②とも同じ)

タイムを宣告し、打者は反則打球でアウト。走者はそれぞれ投手の投球時点で占有していた塁へ戻し、①=2死2塁・3塁、②=1死1塁・2塁として試合再開した。

該当する公認野球規則

6.06 次の場合、打者は反則行為でアウトになる。(2014 公認野球規則 75ページ)

(a) 打者が片足または両足を完全にバッターボックスの外に置いて打った場合。

【原注】

本項は、打者が打者席の外に出てバットにボールを当てた(フェアかフェアウルかを問わない)とき、アウトを宣告されることを述べている。球審は、故意四球が企てられているとき、投球を打とうとする打者の足の位置に特に注意を払わなければならない。打者は打席から跳び出したり、踏み出して投球を打つことは許されない。

5.09 次の場合にはボールデッドとなり、走者は1個の進塁を許されるか、または帰塁する。その間に走者はアウトにされることはない。(2014 公認野球規則 63ページ)

(a)～(c)、(e)～(h) 省略

(d) 反則打球の場合—各走者は戻る。

7—1. 番外編：得点の記録

2014 甲子園夏季大会：広陵高校×三重高校

プレーの詳細

三重高校が延長戦裏の攻撃時、満塁から打者の四球によって3塁走者が押し出されて進塁し決勝点を得た際、四球を選んだ打者走者が喜びのためか、なかなか1塁に触塁せず、1塁コーチからの進言でようやく触塁し三重高校のサヨナラ勝利が確定した。

(アウトカウントは不明です)

該当する公認野球規則

4.09 得点の記録 (2014 公認野球規則 48ページ～) (a) 省略

4.09 (b) (同上 50ページ・51ページ)

正式試合の最終回の裏、または延長回の裏、満塁で、打者が四球、死球、その他のプレイで1塁を与えられたために走者となったので、3塁走者が本塁に進まねばならなくなり、得点すれば勝利を決する1点となる場合には、球審はその走者が本塁に触れるとともに、打者が1塁に触れるまで、試合の終了を宣告してはならない。

ペナルティ

前記の場合、3塁走者が適宜な時間がたっても、あえて本塁に進もうとせず、かつこれに触れようとしなかった場合には、球審は、その得点を認めず、規則に違反したプレーヤーにアウトを宣告して、試合の続行を命じなければならない。

また、2アウト後、打者走者があえて1塁に進もうとせず、かつこれに触れようとしなかった場合には、その得点は認めず、規則に違反したプレーヤーにアウトを宣告して、試合続行を命じなければならない。

0アウトまたは1アウトのとき、打者走者があえて1塁に進もうとせず、かつこれに触れようとしなかった場合には、その得点は記録されるが、打者走者はアウトを宣告される。

(【原注】一省略)

【注】

たとえば、最終回の裏、満塁で、打者が四球を得たので決勝点が記録されるような場合、次塁に進んで触れる義務を負うのは、3塁走者と打者走者だけである。

3塁走者または打者走者が適宜な時間がたっても、その義務を果たそうとしなかった場合に限り、審判員は、守備側のアピールを待つことなくアウトの宣告を下す。

打者走者または3塁走者が進塁に際して塁に触れ損ねた場合にも、適宜な時間がたっても触れようとしなかったときに限り、審判員は、守備側のアピールを待つことなく、アウトの宣告をくだす。

以上は満塁 ⇒ 四球の場合での規定です。

次項に参考として打者走者に1塁進塁の義務がないケースを紹介します。

7—2. 得点の記録 参 考

アマチュア野球内規（2014年）

最終回裏の決勝点

正式試合の最終回の裏かまたは延長回の裏に、規則 7.07 規定のプレイで3塁走者に本塁が与えられて決勝点になる場合には、打者は1塁に進む義務はない。

公認野球規則 7.07

三塁走者が、スクイズプレイまたは盗塁によって得点しようと試みた場合、捕手はまたはその他の野手がボールを持たないで、本塁の上またはその前方に出るか、あるいは打者または打者のバットに触れたときには、投手にボークを課して、打者はインターフェアによって1塁が与えられる。この際はボールデッドとなる。

（【注1】～【注4】は省略）

つまり、四死球などによって押し出される状況で得る点が決勝点となる場合には、打者走者は1塁進塁の義務を負うが、上記7.07のようにボークによって走者の進塁を規定した規則に該当する場合には打者走者に進塁の義務はないことになります。